

ミステリ読書案内

2023. 3. 19 発行元

第458号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

初心者におすすめの本は？

ほとんどミステリを読んだことがないという人から「何を読めばよいか？」と質問があった。ちょっと手掛かりとなる情報が不足して即答出来かねた。「ゼロからのスタートで読むべき本」を少し考えてみた。

私が考える 条件 初心者におすすめの本

1. 万人向けの作家の本
2. 文が読みやすいこと
3. 面白さを保証できるレベル
4. 大作ではないこと
5. シリーズものなら第一作
6. 本が手に入りやすいこと
など

昔の発想では駄目なんだと思う

私が子ども頃なら「最初に読むべき本」は『シャーロック・ホームズ』だったり『怪盗ルパン』だったり、日本のもので言えば『江戸川乱歩』だったり『横溝正史』だったりです。十分に正解なはずなのだ。「ミステリ好き」が明確に見える子だったら『エラリー・クイーン』だったり、『アガサ・クリステイ』だったりを薦めて間違いはない。そういう時代だったのだ。

だが今は違う。今は本があまりにも多すぎ。そして生活基盤・考え方の基本も違ってきているのだから、昔の発想で「おすすめの本」を呈示するのは間違いなんだと思う。『江戸川乱歩』ではさすがに古すぎるような気がする。

読み手の特質がわかれば…

長年教員をしてきたので、受け持ちの生徒からの質問なら直ぐに答えられたと思う。それは個々の生徒の性格や好み、能力を既に把握しているから。その特質に合わせた本を紹介してやればよい。ただ、初対面

の人に聞かれた時は困ると。少なくとも「どんな傾向の本が好きだ」くらいのヒントは言ってもらわないと、選びようがない。特に「読書力」というか、「本への親しみ度」が伝わってくると有難い。

私が考えるおすすめの本の条件

右上に私が考える「おすすめの本の条件」を箇条書きにしてみた。ごくありふれた項目だけ並んでいる。単純に「ミステリは面白い！」と思ってもらいさえすれば良いという発想なのだから。

その条件に沿って考えた「具体例」がその下の箱枠。あまりに無難すぎる選択かなあと思いつつも…

書店・図書館で「自分で選ぶ」が一番

やはり自分で読む本を決めることが一番だと思う。書店で、図書館で実際に本を手に取りながら「これがいかな、あれがいかな？」と思いつくことが大切。実際に読んでみて予想が外れることもあって当然。読書ってそんなものだから。「本を読む楽しみ」が多くの人に伝わってほしい。

《おすすめの本の具体例》

- 宮部みゆき『ステップ・ファザー・ステップ』
- 東野圭吾『ナミヤ雑貨店の奇蹟』
- 今野敏『任侠書房(とせい)』
- 辻真先『たかが殺人じゃあないか』
- 内田康夫『津和野殺人事件』
- 松岡圭祐『万能鑑定士Qの事件簿I』
- 泡坂妻夫『11枚のとらんぷ』
- 中山七里『さよならドビュッシー』
- 知念実希人『仮面病棟』
- 海堂尊『チーム・バチスタの栄光』
- 三上延『ビブリア古書堂の事件手帖』
- 有栖川有栖『孤島パズル』
- 石田衣良『池袋ウエストゲートパーク』
- 米澤穂信『黒牢城』
- 長岡弘樹『傍聞き』 など

「ミステリ」に限らないのなら、佐伯泰英の時代小説なんて誰が読んでも面白いと思うのだが…。図書館に行くとき読み切れないほど並んでいる。そして『このミステリーがすごい!』などのランキング本も本を選ぶ参考にはなる。

知念実希人『仮面病棟』

2014年実業之日本社文庫。2019年には実業之日本社ジュニア文庫にも収められている。この「ジュニア」にも読者層を広げていることが大切なのだと思う。宮部みゆきの『蒲生邸事件』などが講談社青い鳥文庫に収録されているように、大人から子どもまで誰が読んでも楽しめる、面白いというのが「初心者におすすめ」の本の決め手になると考えている。

内扉を開くと田所病院各階フロア図が出てくる。このような図があることは「本格ミステリ」である証拠であり、読み進んでいくと重要な秘密が隠されていることがわかってくる。主人公はアルバイト外科医の速水秀悟。田所病院に週一回、夜間の当直を頼まれている。この病院は療養型病院で、寝たきりやそれに近い状態の患者が多いことが特徴で、なおかつ身寄りのない患者が大部分。普段は緊急を要する対応はめったに起こらないので、当直は比較的のんびりできるのだが…。午後九時、当直室にいとタイヤのパンクのような音が響く。看護師の連絡を受けて一階に行くと、ピエロの面を被った男と倒れ込んだ女性の姿があった。ピエロ男は自ら撃った女性の治療をするように要求した。速水は急いで手術室に運び、対応を開始…。だが、その後…。